Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-17

Significance of Social Support in Mothers' Communities Created through the Child-rearing Process

Honda, Hikaru

(Degree)
博士（保健学）
(Date of Degree)
2015-03-25
(Date of Publication)
2016-03-01
(Resource Type)
doctoral thesis
(Report Number)
甲第6314号
(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1006314

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。

（様式３）

論文内容の要旨

専攻領域　地域保健学

専攻分野　地域保健学

氏　　名　本田　光

論文題目（外国語の場合は，その和訳を（　）を付して併記すること。）

Significance of Social Support in Mothers' Communities Created through the Child-rearing Process

（子育てを通して構築される母親のコミュニティとソーシャルサポートの意義）

論文内容の要旨

子育てを通して構築される母親のコミュニティの構成要素とそこから得ているソーシャルサポートの母親にとっての意義について明らかにすることを目的とした。

本研究においてコミュニティとは、地理的空間を共有するあるいは地縁に基づくコミュニティと特定の目的に基づいて形成されるコミュニティおよび親族コミュニティの3種に区別して定義している。また、母親とコミュニティにおける人々との結びつきは、その役割に応じて変化しうる関係性によって３層に分類した。第１層は配偶者などの変化しない関係性、第２層は友人など役割に関連して時間の経過と共に変化が生じやすい関係性、第３層は特定課題に応じて対応する専門家など、その役割に応じてもっとも変化しやすい関係性にある人々である。コミュニティ形成の要素には、組織のように規範によって維持されるものだけではなく、メンバーシップや相互に働く影響力、情緒的つながりによる人々の自然発生的な結びつきによって形成されるものも含む。

研究方法は、グランデッド・セオリー・アプローチを用いた質的分析である。対象は、１歳～4歳までの幼児を持つ母親とし、母親の年齢や子どもの数は問わないこととした。調査期間は、2013年９月から2014年７月である。調査対象は、Ａ県内において人口規模の違う５自治体における子育て支援センター、子育てサロン、保育所の９施設から施設スタッフの紹介によって協力の得られた母親24名である。データ収集は、インタビューガイドを使用して半構造化面接を行い、ICレコーダーに録音した音声を逐語録に起してデータとした。

子育てを通して構築される母親のコミュニティの構成要素は、6つカテゴリーから説明され、ソーシャルサポートの母親にとっての意義は、５つのカテゴリーから説明された。母親のコミュニティは、子どもがいるから出会える様々な世代の人々、その場限りのお付き合い程度の知人、日常的な子育ての体験を共有し合えるママ友、母親の交流をサポートする公的立場のスタッフ、子どもの祖父母として援助を頼むことができる夫の親、妻の他者との交流に理解のある夫であった。ソーシャルサポートの意義は、「これでいいんだ」と納得できる感覚、共感から湧き出る子育てに対する私のやる気、近隣地域に私たちの居場所がある感覚、子育てに関する社会的なことへの関心の広がり、親族として子育ての負担を共有してくれるであった。

本研究の成果によって、母親は地理的空間を共有するコミュニティにおける人々と特定の目的に応じて形成されたコミュニティにおける人々との関係性の実態が明らかになった。また、例えば子育てサロンで出会ったボランティアスタッフの女性が町内会の役員でもあったことが後に分かり、町内会主催の行事でも声を掛け合う関係性に発展していくなど、目的縁で始まった出会いが地縁の関係性に変化しうることも明らかになった。

さらに、同じ子育てサロンでの出会いであっても、その場限りの知人とママ友とが区別されたように、コミュニティの人々と母親とのつながりには強弱のある関係性が混在していること、また、スタッフとの関係性など、子育ての進行に応じてその役割に変化が生じ、結果として関係性の強さにも変化を生じていた。これらの事実の発見はこれまでのソーシャルサポート研究に新たな知見を提供するものである。

さらに母親はソーシャルサポートによって、子育ての負担に対する心理的サポートを得るだけでなく、地域の人々とのつながりは、母親に地域における居場所を提供し、母親自身も地域を構成する一人としての社会性の発達を支える機能も提供していた。本研究の成果は、現代の子育てを理解するだけでなく、コミュニティ・ベースで子育てを支える仕組みづくりを考える際の基礎資料としての活用も期待される。

指導教員氏名：松田宣子

（別紙１）

論文審査の結果の要旨

氏　名	本田　光		
論文題目	Significance of Social Support in Mothers' Communities Created through the Child-rearing Process （子育てを通して構築される母親のコミュニティとソーシャルサポートの意義）		
審査委員	区　分	職　名	氏　名
	主　査	教　授	松田　宣子
	副　査	教　授	高田　哲
	副　査		印
	副　査		印

要　旨

本研究は子育てを通して構築される母親のコミュニティの構成要素とそこから得ているソーシャルサポートの母親にとっての意義について明らかにすることを目的とした。

研究方法は、グランデッド・セオリー・アプローチを用いた質的分析である。対象は、1歳～4歳までの幼児を持つ母親とし、調査期間は、2013年9月から2014年7月である。調査対象は、A県内において人口規模の違う5自治体における子育て支援センター、子育てサロン、保育所の9施設の母親24名である。データ収集は、インタビューガイドを使用して半構造化面接を行った。

結果として、子育てを通して構築される母親のコミュニティの構成要素は6つカテゴリー、ソーシャルサポートの母親にとっての意義は5つのカテゴリーから説明された。母親のコミュニティは、子どもがいるから出会える様々な世代の人々、その場限りのお付き合い程度の知人、日常的な子育ての体験を共有し合えるママ友、母親の交流をサポートする公的立場のスタッフ、子どもの祖父母として援助を頼むことができる夫の親、妻の他者との交流に理解のある夫であった。ソーシャルサポートの意義は、「これでいいんだ」と納得できる感覚、共感から湧き出る子育てに対する私のやる気、近隣地域に私たちの居場所がある感覚、子育てに関する社会的なことへの関心の広がり、親族として子育ての負担を共有してくれるであった。本研究の成果によって、母親は地理的空間を共有するコミュニティにおける人々と特定の目的に応じて形成されたコミュニティにおける人々との関係性の実態が明らかになった。また、スタッフとの関係性など、子育ての進行に応じてその役割に変化が生じていた。これらの事実の発見はこれまでのソーシャルサポート研究に新たな知見を提供する貴重な価値ある集積である。

よって、学位申請者本田光氏は博士（保健学）の学位を得る資格があると認める。

Significance of Social Support in Mothers' Communities Created through the Child-rearing Process・Hikaru Honda, Nobuko Matsuda, Michiko Hirano, Kazuko Saeki・Bulletin of Health Sciences Kobe・Vol30,March,2015（掲載予定）